

オンライン申請情報の入力に係る依頼事項(不動産) 令和2年12月1日版

項 番	分 類	依頼事項	理 由
1-1	登記の目的	仮登記の「登記の目的」について、次の【例】の右側のように入力していただくようお願いします。 【例】 ①「仮登記名義人の住所変更」 → 「所有権仮登記名義人住所変更」 ②「所有権移転請求権仮登記の移転」 → 「所有権移転請求権の移転」 ③「条件付賃借権設定仮登記の移転」 → 「条件付賃借権の移転」 ④「抵当権設定仮登記変更」 → 「抵当権設定仮登記変更」 ⑤「仮登記抹消」 → 「所有権仮登記抹消」又は「抵当権仮登記抹消」	「登記の目的」の文字等は、申請情報どおりに登記事項に編集され、自動的に修正されないため。
1-2	登記の目的	名変や抹消の「登記の目的」について、次の【例】の右側のように入力いただくとともに、変更(又は抹消)する登記の順位番号は入力せず、順位番号は申請物件ごとに「対象登記の順位番号」欄に入力していただくようお願いします。 【例】 ①「1番所有権登記名義人住所変更」 → 「所有権登記名義人住所変更」 ②「1番抵当権登記名義人住所変更」 → 「抵当権登記名義人住所変更」 ③「1番抵当権抹消」 → 「抵当権抹消」	「登記の目的」の文字等は、申請情報どおりに登記事項に編集され、自動的に削除・修正されないため。
1-3	登記の目的	「登記の目的」に「抵当権抹消(順位番号後記のとおり)」のように括弧書きの文言を付す場合には、以下のように入力していただくようお願いします。 ①(付記)、②(追加)、③(順位番号後記の通り)、④(順位番号後記のとおり)、⑤(○番仮登記の本登記)	「(順位番号後記のとおり)」の文字を削除して編集するが、「(○○)」の文字を削除するのは、括弧内の文言が左記の①～⑤の場合に限られるため。
1-4	登記の目的	オンライン申請の登記の目的に「(あ)抵当権設定」等の同順位符号を付す場合には、3文字(括弧と仮名)の「(あ)」ではなく、1文字の「あ」を入力していただくようお願いします。	不要な文字等は、申請情報どおりに登記事項に編集され、自動的に削除されないため。
1-5	登記の目的	「登記の目的」について、次の【例】の右側のように登記事項として記録する内容と同一に入力していただくようお願いします。 【例】 ①「甲某及び乙某持分全部移転」 → 「甲某, 乙某持分全部移転」 ②「共有者法務太郎持分全部移転」 → 「法務太郎持分全部移転」 ③「甲某及び乙某持分抵当権設定」 → 「甲某, 乙某持分抵当権設定」 ④「共有者法務太郎持分抵当権設定」 → 「法務太郎持分抵当権設定」	「登記の目的」の文字等は、申請情報どおりに登記事項に編集され、自動的に修正されないため。
2-1	原因	抵当権等の原因について、「○年○月○日金銭消費貸借△年△月△日設定」の申請の場合で、「○年○月○日」と「△年△月△日」が同一のときは、「△年△月△日」を「同日」と入力していただくようお願いします。	「原因」の文字等は、申請情報どおりに登記事項に編集され、自動的に修正されないため。
2-2	原因	根抵当権の債権の範囲について、債権と債権の間は、中点(・)ではなく、次の【例】の右側のように空白を入力していただくようお願いします。 【例】 「銀行取引・手形債権・取引債権」 → 「銀行取引 手形債権 取引債権」	「原因」の文字等は、申請情報どおりに登記事項に編集され、自動的に修正されないため。

2-3	原因	「登記原因日付」について、次の【例】の右側のように入力していただくようお願いします。 【例】 ①「令和元年」 → 「令和1年」	「登記原因日付」の文字等は、申請情報どおりに登記事項に編集され、自動的に修正されないため。
2-4	原因	「登記原因」について、次の【例】のような余分な空白や改行を入力しないようお願いします。 【例】 ①「令和1年7月10日口売買」(口は空白) ②「令和1年7月10日(タブ改行)売買」 ③「〇年〇月〇日金銭消費貸借(タブ改行)同日設定」	「登記原因」の文字等は、申請情報どおりに登記事項に編集され、自動的に削除されないため。
2-5	原因	抵当権等の原因について、次の【例】の右側のように入力していただくようお願いします。 【例】 「〇年〇月〇日付(又は「付け」)金銭消費貸借同日設定」 → 「〇年〇月〇日金銭消費貸借同日設定」	「原因」の文字等は、申請情報どおりに登記事項に編集され、自動的に修正されないため。
2-6	原因	名変の「変更後の事項」の項目名について、次の【例】の右側のように入力していただくようお願いします。 【例】 変更後の事項の項目名「住所氏名」 → 「氏名住所」	「変更後の事項」の項目名の文字等は、申請情報どおりに登記事項に編集され、自動的に修正されないため。
2-7	原因	名変で「住所」「氏名」により原因が2つ以上ある場合は、次の【例】の下側のように改行の上入力していただくようお願いします。 【例】 「年月日住所移転, 年月日氏名変更」 → 「年月日住所移転 年月日氏名変更」	名変で「住所」「氏名」により原因が2つ以上ある場合は、申請情報どおりに登記事項に編集され、自動的に修正されないため。
2-8	原因	建物滅失登記の「原因」について、次の【例】の右側のように入力していただくようお願いします。 【例】 「取毀」「取り壊し」 → 「取壊し」	「原因」の文字等は、申請情報どおりに登記事項に編集され、自動的に修正されないため。
3-1	住所・氏名	氏名(カタカナ表記も含め)及び住所について、次の【例】のような余分な空白を入力しないようお願いします。 【例】 氏名「法務口太郎」、住所「何市何町何丁目何番何号口402」 商号「株式会社口HOUMU」	余分な空白は、申請情報どおりに登記事項に編集され、自動的に削除されないため。 また、自動突合結果票も空白があるものは、照合不可となるため。
3-2	住所・氏名	所有者や債務者の住所について、次の【例】の右側のように入力していただくようお願いします。 【例】 所有者や債務者の住所「〇〇町1丁目」 → 「〇〇町一丁目」	所有者や債務者の住所の文字等は、申請情報どおりに登記事項に編集され、自動的に修正されないため。
3-3	持分	持分の分母が万の単位より大きい場合は、次の【例】の下側のように「億」「万」で入力いただくようお願いします。 【例】 「持分1, 234, 560, 000分の7, 890」 → 「持分12億3456万分の7890」	持分の分母が万の単位より大きい場合は、申請情報どおりに登記事項に編集され、自動的に修正されないため。
4-1	利息・損害金	利息や損害金について、次の【例】の右側のように入力していただくようお願いします。 【例】 「年利〇%」 → 「年〇%」	「利」の文字は、申請情報どおりに登記事項に編集され、自動的に削除されないため。

4-2	利息・損害金	利息や損害金の表示について、次の【例】のような余分な空白を入力しないようお願いします。 【例】 「年365日□日割計算」(□は空白)	余分な空白は、申請情報どおりに登記事項に編集され、自動的に削除されないため。
5-1	所在	建物の所在が複数にまたがる場合において、次の【例】のように(ベタ打ちではなく)登記記録のとおり改行して入力いただくようお願いします。 【例】 ○○大字○○字A 1番地 ○○大字○○字B 1番地	建物の所在は、改行して入力していない場合、突合結果でエラーとなり、自動的に改行しないため。
6-1	面積	物件の表示の面積については、少数点に「,」(カンマ)を使用せず、次の【例】の右側のように入力いただくようお願いします。 【例】 「123, 45」 → 「123・45」	「面積」の文字等は、申請情報どおりに登記事項に編集され、自動的に修正されないため。
6-2	床面積	物件の表示の床面積について、平家建以外の場合は、次の【例】の右側のように階の後にスペースを1つ入力いただくようお願いします。 【例】 「1階123・45」 → 「1階 123・45」	「床面積」の文字等は、申請情報どおりに登記事項に編集され、自動的に修正されないため。
7-1	種類 構造 地目	種類、構造、地目については、次の【例】の下側のように登記記録のとおり改行しないで入力いただくようお願いします。 【例】 「鉄筋コンクリート 造合金メッキ鋼板ぶき 2階建」 → 「鉄筋コンクリート造合金メッキ鋼板ぶき2階建」	「種類、構造、地目」の文字等は、申請情報どおりに登記事項に編集され、自動的に修正されないため。
8-1	敷地権	敷地権の分母が万の単位より大きい場合は、次の【例】の下側のように「億」「万」で入力いただくようお願いします。 【例】 「10, 000, 000分の17341」 → 「1000万分の1万7341」	敷地権の分母が万の単位より大きい場合は、申請情報どおりに登記事項に編集され、自動的に修正されないため。
9-1	会社法人等番号	会社法人等番号については、当事者又は添付情報の所定の箇所に「半角数字」で入力していただくようお願いします。	全角数字で入力した場合、資格証明情報が出力されず、受付において個別に修正する必要があるため。